



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラク：米軍戦闘部隊の都市部からの撤収

(6月30日-7月1日付現地各紙)

イラク国内の米軍戦闘部隊の都市部からの撤収に関して、6月30日-7月1日のイラクでの報道振り概要は以下の通り。

1. 6月30日、バグダッド市内の無名戦士の墓及び周辺の式典会場(クロスソードのある広場)で米軍戦闘部隊の都市部からの撤収を祝う式典が開催された。この式典ではイラク治安部隊の兵士や装甲車が参加するパレードが行われた。

2. 式典におけるイラク政府要人の発言概要

(1) タラバーニー大統領

本日はイラクの歴史が新たな歴史に進む日である。イラク軍が都市、町、村の治安権限を引き継いだ事は、完全な主権回復に向けた新たな一歩である。前政権を倒し、イラクにおける治安を確立してきたこれまでの多国籍軍の努力に感謝する。

イラクが統一を維持し、民主的な道を進んでいくためにも、イラク国民の努力を結集する必要がある。また、治安の安定のためにはイラク政府及びイラク軍への国民の協力が必要である。

(2) マーリキー首相

イラク国民及び各政治勢力に対して、イラクの安定を維持するためにイラク軍及び治安機構と協力することを呼びかける。イラク軍は米軍が撤収した後の治安を掌握する能力を有している。

3. オディエルノ駐イラク多国籍軍司令官(6月30日)

今はイラク国民にとっては、サッダーム・フセインのような独裁者がいたときよりもずっと良い状態になったと思う。イラク国民は、進んでいく将来を見ることができるようになり、また、政府に対しても発言することが出来るようになった。

(記者からイラク国内に残っている米軍の数に関する質問があったが、オディエルノ司令官が答えなかったことについて)自分が回答しなかったのは、数字は毎日変化するためである。イラク国内に残っている米軍は、イラク軍に対して訓練を実施したり、助言を与える事が任務となる。